

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271500987		
法人名	有限会社UTASI		
事業所名	グループホームうたし		
所在地	〒859-6264 長崎県北松浦郡鹿町町下歌ヶ浦免986-38		
自己評価作成日	平成21年12月20日	評価結果市町村受理日	平成22年2月26日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島町2丁目7217 島原商工会議所 1階		
訪問調査日	平成22年1月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「自分らしくあるがままに」という理念の元に入居者個々の今までの生活を尊重し、スタッフがそれぞれを理解し、そのペースで生活できるように努力している。また、心療内科週1回)、内科(月1回)の訪問診療に来ていただき、健康面についても配慮している。口腔のケアについても、週1回歯科衛生士に来ていただき、嚥下、歯磨きの仕方、口腔内のマッサージ等指導いただいている。

海沿いに面した住宅街に溶け込むように生活されているホームである。ホームの直ぐ斜め前の店は入居者にとって社会との大事な架け橋である。店に入ると新鮮な魚や、果物、お菓子など生活感や季節感を味わうことができ、地域の産物も取り入れたコンビニエンスストアである。ホームにとっても顔馴染みの店員の対応で安心した買い物支援ができており、店にとっても入居者は大事なお客様でもある。そんな恵まれた地域環境の中で、これまでの生活の延長線上にホームでの生活を「自分らしくあるがままに」過ごされている入居者と職員の姿がある。また、経営者の笑い声は全てを包み込んで、その場を和みに変え、笑い声や笑顔を誘うムードメーカーでもある。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)- です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義をふまえた上で開設当初からの理念を職員全員が普段の生活の中でもホーム内でも地域の中でも自然に共有しまた実践している。	入居者や職員に限らず誰にでも共通して言える「どこにいても自分らしくありのままに生きたい」心情を基本に、入居者本人の望む生活を手助けして、これまでの生活の延長線上の支援に努められている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	少しずつ地域の方との継続したつながりもみられ地区行事や老人会行事の参加では利用者と地域の方との自然な会話もみられる。また事業所行事の際等料理のおすそ分けを届けたり利用者の絵を店内に展示してもらったりと交流している。	毎年8月16日に、事業所に隣接した海辺で花火大会が開催されており、この日はホームの敷地で利用者の縁者や職員等とバーベキューを楽しむ地域の方にも敷地を開放し、一緒に花火観賞をされている。今後は、近隣の店に行事等の案内掲示も許可していただけよう思慮されている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区の総会や老人会の会合時相談がある場合があり出来る限り経験や取り組みについてお話している。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議を開催し毎回活動報告、入居者の動静を報告し意見をいただいている。地域の情報や事業所として役割を再認識するなどサービスの向上に反映している。	今年度はインフルエンザの関係で、面会制限を余儀なくされ、運営推進会議の会場をホームから地区公民館へ変更して開催されている。地区の参加メンバーからは地区行事や活動情報をリアルタイムでお伝えいただき、介護保険課担当者からは福祉行政に関する情報提供があり、それらの情報を参加メンバーが共有し有効活用につなげられている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日常的に報告、連絡、相談する機会をもっている。	町の介護保険課担当者から運営推進会議開催の事前確認や時期的な情報提供など丁寧なかかわりで事業所をサポートした連携につながっており、事業所も日常的なかかわりを大事にされている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	20年度の身体拘束廃止研修受講後報告し全スタッフで考える機会を持ち不必要なベッド柵を取り外すなど改めて身体拘束をしないケアに取り組む意識を高めた。	研修受講後、危険防止のためにしていた片側壁と併用したベッド柵も見直しの対象として検討し改善されている。今では、身体拘束をしないことを前提に取り組みしており、やむを得ない場合や家族の要望があるときは経過観察記録をとりながら身体拘束「0」へ向けた支援に努められている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所全体で全員が相互に注意を払い、虐待防止に努めている。今後も虐待防止関連法について学ぶ機会をもちたいと考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者お一人が活用されており今後も活用を検討する必要がある入居者もおられ職員全員が制度を学ぶ機会をもちたいと考えている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約の際は事業所契約書、重要事項説明書の内容を十分に説明し理解をいただいている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者へは日々の生活の中でさりげなく声をかけ思いを引き出すように働きかけている。ご家族へは面会の際に時間を頂き意見や要望を尋ねるようにしている。また季節ごとの便りにもその旨を記載して意見を募っており運営に反映している。	食事に関するアドバイス等は受けられているが、利用者や家族の伝えにくい心情を察した取り組みの必要性は感じられており、ニーズの把握につながる取り組みを検討されている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回のカンファレンスの中で全職員に意見を求め協議し運営に反映させている。又日々の業務の中でも意見を出し合い反映させている。	伝えやすい雰囲気はあるが、介護サービス情報公表制度の義務化で見えてきた事業所の取り組みを再度検討される機会と捉えている。	この機会に、管理者及び従業者の職務権限など明確にされ、更に運営に関する事業所の姿勢を関係者全員で周知し、再認識を図られることに期待したい。
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	勤務時間等負担にならないように、有給を取りやすい環境を作っている。給与においても、資格手当等を設け、やりがいが出るよう努力している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所外の研修を受ける機会は少ないため事業所内で必要に応じて勉強している。(口腔ケアや義歯接着剤使用法など)		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所内の季節毎の行事に招待した際に職員同士の交流を図っているが勉強会を開催するまでには至っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前から担当者がご本人と面話し顔を合わせる機会をもち少しずつ話が出来る雰囲気をつくり信頼関係を築く努力をしている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居までに担当者話し合いを持ち具体的な困り事、要望等を話し合い入居後も家族からの話を聴く機会をもっている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けたときの内容により状態に応じた他のサービス利用の説明を行い選択肢を提供し対応している。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員それぞれがご利用者お一人お一人の状態を日頃から把握する努力をし、楽しみや寂しさを共有しながら、支えあい、信頼関係を構築している。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人のありのままの生活を知っていただくように会話する機会をつくり、在宅時の様子等の情報を提供していただき、協力しあう関係を築いている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者の希望や思いに出来るだけ添うように可能な限り支援している。	身内等の年忌法要や葬式に利用者が参列できるよう支援されており、遠くは長崎まで同行されている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	性格や相性を考察し、ご利用者同士の会話は静かに見守り、さり気なく隣に誘導する等日常的に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて支援に努めている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	さり気なく声をかけ、現在思っている事、感じている事、ご希望を伺い、その時の最善策で対応し納得していただけるように検討している。	様子観察や声かけを通してコミュニケーションにつなげ、入居者の意向等の把握に努められている。お風呂場でのコミュニケーションを大事にされている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族から情報収集をおこない、これまでの暮らしを把握し、現在の生活の参考にしている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中でそれぞれの有する力を発揮し、その時の心身状態に合わせて発揮できる場を提供している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人からの意見や要望が出にくい場合は日常生活の中で必要となるケアやアイデアを担当者や他スタッフが意見を出し合い介護計画に反映している。	利用者担当職員を中心にケアプラン期間内の職員の気づきや提案を出してもらい、ケアカンファレンス会議(サービス担当者会議)で案づくり、最終的にはケアマネジャーによってケアプランが作成される。また、必要時には利用者や家族にもサービス担当者会議へ出席いただいている。現在、計画書(2)の様式の変更を検討されている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の個人記録を24時間途切れることなく行っており、スタッフそれぞれが情報を共有し介護計画の見直しに努めている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況の変化に伴う要望に柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	老人会や地区会に入会し季節の行事に出来るだけ参加し日頃から気軽に声をかけ合える関係づくりをしており安心して楽しく生活できるように支援している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅時からのかかりつけ医を定期的に受診し、又必要な方は一週間に一回の往診をされている。	必要な方や希望者には心療内科の往診を受けられており、利用者の症状の安定につながっている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活の中で早期に異常を発見できるように日頃の状態を把握し必要な情報を看護職に相談し適切な看護を受けられるように支援している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には出来るだけ医療機関へ顔を出し情報交換や相談をして医療機関との関係づくりに努めている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	定期的にご利用者の現状を主治医と話し合い、必要に応じて主治医とご家族が話をする機会をつくっている。また事業所として出来ること、出来ないことを見極め医療機関や他事業所と共同して支援に取り組んでいる。	ターミナルケアについては職員体制が整っていないのとホームとしての力量把握が不十分なので、現時点での対応はされていない。なお、重度化などで医療的処置が必要な時は適切な医療が受けられるように支援されている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ご利用者お一人お一人の急病時活用ファイルや夜勤帯(1名)日勤帯(3名)での緊急時対応マニュアルを作成し対応している。急変や事故対応時に備え定期的に訓練を実施している。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な災害時の避難訓練を行っている。	秋の消防による避難訓練と春の自主防災訓練の取り組み等で避難場所の把握や非常食の備蓄等はされている。	更に、非常時の持ち出し品の整備や被災後の復帰体制も踏まえたライフラインにつながる取り決めが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お一人お一人のそのときの状態に合った言葉かけや対応を職員それぞれが心がけ実践している。	個別記録等の個人情報に関わる書類は特定の場所に保管管理されている。また、定期的に業務の振り返りや職員の意識付けにつながる取り組みもされている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定や選択が出来るように日常生活の中で日々働きかけている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調やその時の思いに合わせて、ご自分のペースで一日を過ごせられるように支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行きつけの理容、美容室へ定期的に行って季節に合った身だしなみやおしゃれが出来るように支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ほとんど毎日利用者と職員が台所に入り、その方に合った力を活かしている。	その日その時のメニューで直ぐ近くの店で入居者と一緒に買い物やされている。また、月に1回、カンファレンス会議の日は、入居者が自分達の食べたいものを買い物され食べられている。食後の後片付けも入居者と職員と一緒にされている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お一人お一人のその時の状態に応じた摂取量や形態、嗜好などを考慮している。又水分摂取が困難な場合など飲む環境や姿勢、椅子の選択など必要に応じて支援している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアの支援をしている。歯ブラシを使用できない場合にはガーゼを使用するなど毎週1回定期的に歯科衛生士に口腔ケアを依頼し専門的に指導を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	早期に排泄パターンを把握しトイレで排泄が出来るように誘導、声かけをして出来るだけ不快な思いをしないように支援している。	トイレが一箇所増えたこともありポータブルトイレの使用者が減少している。オムツやリハビリパンツ使用でもトイレでの排泄支援を心がけられている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便通異常の方が多いためトイレ使用後に声をかけ必ず確認をし記録している。薬剤が必要な方は主治医と相談しそれ以外では食べ物や水分量を考慮しながら支援している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	季節に合わせて入浴支援している。定期的に地域の温泉を運んでもらい温泉湯を楽しまれている。それぞれの希望やタイミングに合わせて声かけをして入浴を楽しまれている。	冬場は隔日に沸かされ、夏場は毎日沸かされており、本人の希望やタイミングに合わせた入浴支援をされている。また、月に2回、平戸から温泉を宅配してもらい、入居者にも好評である。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来るだけ睡眠導入剤に頼らない方法をとっている。日中外気に触れたり活動する時間を持ち自然な睡眠がとれるようにその方合った対応を心かけて支援している。」		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤説明書を各自カルテに添付し変更があればその都度記録し申し送りを行い職員全員が確認している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人お一人の楽しみを理解できるよう日々の生活の中で把握できるように努め、小さなことでも喜びや張り合いがもて自然と笑顔がでる生活が出来るように心がけ支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	突然のご希望でそのときにすぐ対応出来ない場合には事情を説明し納得を得て対応している。	今年度はインフルエンザの影響で自粛策をとられたこともあり、近くの店など事業所周辺が外出の場となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お一人お一人の力に応じて支援している。職員と一緒に買い物に出かけてもご自分の財布から支払いをして頂くなどご本人に合った方法で支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書く方には必要な物を準備して対応している。電話を希望される方にはその都度対応している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自然な生活音の中で居心地良く過ごせるよう配慮し、季節の草花をご利用者の目の届く場所に飾り季節感を感じていただくように工夫している。	共用空間での極端な温度差や不快な臭いは感じられず換気も適宜にされている。リビングに居ると煮炊きの匂いや調理などの生活音などで五感に刺激を受けながら集いや独り居を選ぶことができ、入居者一人ひとりにとって落ち着けるソファや定位置で寛がれている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	種類の違う椅子やソファを用意し、その時の気分に合わせて好みの場所や、気の合った方同士で過ごせるように工夫している。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご家族にも説明し、出来るだけ使い慣れた、見慣れた生活必需品を用意していただき安心して生活できるように対応している。	見せていただいた居室には、入居者の趣味や調度品が持ち込まれており、これまでの生活の延長線上の支援として和式の布団で寝起きされている人もおり、個別性を大事にした支援が窺える。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要などころに手すりを設置、玄関には座って靴が履けるようにベンチを置き安全でそして持っている力を発揮できるような生活が送れるように配慮している。		